

健康で豊かな家庭を願う

月刊

2025
8

ことば

<https://www.drugmagazine.co.jp/>

読者企画

楽しかった夏の思い出

旬の野菜・果物で元気に

注目!



107人に当たる
ビッグクイズ

整腸薬でおなかを健康に保つ
災害が起こる前にトイレ対策

血糖値の変動を緩やかに

食後高血糖を防ぐ

慢性腎臓病

eGFRの低下を早めに防ぐ

腎機能の改善に漢方という選択
補腎・活血の中医薬の知恵を生活に

腎臓の働き、気づかぬうちに落ちていませんか？
腎臓のろ過機能である「ネフロン」は、糖尿病や高血圧といった生活習慣病や加齢によって徐々に減少し、腎機能の低下につながります。特にeGFR値が60を下回ると、慢性腎臓病と診断される可能性があり、進行すると回復が難しくなってしまいます。

しかし、西洋医学で原因疾患に対処しつつ、漢方の力を借りることで腎機能の維持・改善を目指すことができます。

西洋医学は原疾患に対処し
腎機能の負担を軽減する

健康診断は受けていますか？
腎機能の働きを示す数値があることはご存じでしょうか。

腎臓機能が徐々に低下していく慢性腎臓病は、自覚症状

がほとんどありません。悪化すると元に戻らないため血清クレアチニンやeGFR（推算糸球体ろ過量）のチェックをして、早期発見することが大切です。

eGFRとは、腎臓機能の状態を5段階に区分したものの（29頁「囲み記事参照」）。腎臓に

は、ネフロンという老廃物を尿として排出するためのろ過機能があります。ネフロンの数が減少すると、腎機能が低下。eGFRが60を切ると慢性腎臓病と診断されるのです。

ネフロンは毛細血管の集まり。糖尿病や高血圧、慢性糸



お話し 薬剤師・鍼灸師・国際中医専門員
誠心堂薬局 代表取締役

にし の ゆういち
西野裕一 先生

プロフィール／1981(昭和56)年、北里大学薬学部卒業。2011(平成23)年、東京医療福祉専門学校卒業。1989(昭和62)年、誠心堂薬局を設立。東京・千葉で漢方薬局・鍼灸院などを21店舗展開。「4月15～18日、中国・天津へ。世界中医薬連合会を表敬訪問(写真)」。また、北京中医药大学東直門病院では腎臓内科や婦人科などの専門家グループと交流しました。さらに、面会が困難とされる国医大師の張大寧先生のご自宅への訪問も叶ったのです」



2025(令和7)年4月15日、
世界中医薬学会連合会腎臓内科専門部会



腎臓を大切に

中医薬では、体質や症状、eGFRの数値に応じて個別に対応することを重視します。腎を補う、補腎、血

医学視点の慢性腎臓病
「補腎活血法」で考查

そして、eGFRが15を切ると透析の準備が必要になってくるのです。

誠心堂薬局では、これらの

流を改善し詰まりを解消する「活血」、この2つを組み合わせた「補腎活血法」は、慢性腎臓病の進行予防に役立つとされます。

理論に基づいた処方提唱しサプリメントを独自に開発。多くの方のご相談に応じています。

漢方はeGFRや症状、体

る方、検査結果が気になる方、中医薬的なケアに興味がある方、どんなことでも構いません。誠心堂薬局では、店頭はもちろん、電話やオンライン相談もご利用いただけます。ご自身のからだに合った方法を、一緒に見つけていきましょう。あなたの腎の健康を、一緒に考えてみませんか？



知っておこう！

「G2～3ならば、漢方が回復をサポートを。それ以上になると透析に進まないよう現状維持をしていくことになります」

一般社団法人日本腎臓学会のサイトからeGFR値が求められます。
<http://jsn.or.jp/general/check>

腎機能の働きを示す数値

区分	状態	eGFR
G1	正常または高値	90以上
G2	正常または軽度低下	89～60
G3a	軽度～中等度低下	59～45
G3b	中等度～高度低下	44～30
G4	高度低下	29～15
G5	高度低下～末期腎不全	15未満

実例紹介

漢方の併用で慢性腎臓病対策

■相談者Aさん(78歳・男性)

高血圧と糖尿病の治療中。状態は安定しているが、腎機能の低下が心配。医師からeGFRが30を切ると透析の準備が必要といわれている。

- ・相談時／2022年8月29日／クレアチニン1.4／eGFR 38.5→G3b
- ・漢方服用後／2023年12月8日／クレアチニン1.2／eGFR 45.3→G3a

■相談者Bさん(65歳・男性)

55歳のときに脳腫瘍を摘出。その後、抗がん剤を5年間服用して完治したものの、腎機能が悪化。血圧が若干高い。

- ・相談時／2024年8月6日／クレアチニン1.78／eGFR 31.0→G3b
- ・漢方服用後／2024年12月20日／クレアチニン1.11／eGFR 52.0→G3a

「西洋医学の治療薬と漢方薬は、多くの場合、併用可能です。ご相談ください」(西野裕一先生)